

●京都学・歴彩館

<p>前回検証結果</p>	<p>見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置目的に照らした成果指標の設定が必要。 ・ホールの利用率向上のため、営業強化や教養教育共同化施設との連携を検討するとともに、施設運営の費用対効果の分析を行い、指定管理の導入の可否等について、速やかに検討を行うこと。 																																
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の活用及び京都学の発信に関する成果指標を設定。東寺百合文書 WEB PV 数等、目標を達成している部分もあるが、達成できていない項目については、引き続き、利用改善に係る取組を推進。 <p><成果指標項目></p> <p>資料の活用 → ①閲覧室入室者数 ②相談件数 ③出納件数 ④東寺百合文書 WEB PV 数 他</p> <p>京都学の発信 → ①自主講座等の開催数 ②展示室閲覧者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各業務を分析し、直営と民間事業者のどちらが効率的かつ・効果的に実施ができるかの観点で業務を整理の上、民間事業者による実施が適当な業務については、令和2年4月1日から指定管理者制度を導入。 ・指定管理業務である大ホール・小ホールの維持管理については、子ども（ベビーヨガ、恐竜教室等）から年配者（落語会、鉄道の歴史等）まで幅広い年代を対象とした自主事業を多数開催（R3:65回）。 																																
<p>取組の結果</p>	<p>◇資料の活用及び京都学の発信における成果指標は、概ね目標を達成。</p> <p>【達成率：資料の活用】</p> <table border="1" data-bbox="501 1240 1318 1473"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①閲覧室入室者数</td> <td>99%</td> <td>25%</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>②相談件数</td> <td>111%</td> <td>80%</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>③出納件数</td> <td>89%</td> <td>73%</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>④東寺百合文書 WEB PV 数</td> <td>149%</td> <td>93%</td> <td>159%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成率：京都学の発信】</p> <table border="1" data-bbox="501 1532 1318 1671"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①自主講座等の開催数</td> <td>59%</td> <td>39%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>②展示室閲覧者数</td> <td>70%</td> <td>43%</td> <td>45%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇新型コロナウイルス感染症の影響下においても、ホールの利用率は大幅に改善。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用率 大ホール H29:13.1% → R3:50.4% 小ホール H29:16.7% → R3:64.6% 		R元	R2	R3	①閲覧室入室者数	99%	25%	33%	②相談件数	111%	80%	72%	③出納件数	89%	73%	65%	④東寺百合文書 WEB PV 数	149%	93%	159%		R元	R2	R3	①自主講座等の開催数	59%	39%	35%	②展示室閲覧者数	70%	43%	45%
	R元	R2	R3																														
①閲覧室入室者数	99%	25%	33%																														
②相談件数	111%	80%	72%																														
③出納件数	89%	73%	65%																														
④東寺百合文書 WEB PV 数	149%	93%	159%																														
	R元	R2	R3																														
①自主講座等の開催数	59%	39%	35%																														
②展示室閲覧者数	70%	43%	45%																														
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆直営と指定管理が混在している施設のより効果的・効率的な管理運営のあり方。 ◆一部指定管理（ホール等）の導入後の状況を踏まえた利用料金収入、利用者数及び利用率の更なる改善。 																																

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□京都府にとっても重要な課題である海外から招聘した研究者の研究 成果や、研究者とのネットワークの維持を充実するとともに、 招聘研究者との継続的な関係性の強化が行われることに期待し、 その研究成果を積極的に府民に公表されたい。</p> <p>□施設の設置目的を明確にした上で、利用者ニーズを見極めたサー ビスの提供を模索されたい。</p> <p>□本施設は、「誰がどのように使えるのか」、「来館することでど のようなサービスが享受できるのか」の周知が及んでいないと思 われる。</p> <p>□「京都学」を深めることの価値を担保するためのコストが、府民 還元の視点からはバランスが取れていないと感じるため、府民及 び京都府への有益性を可視化できる評価指標を構築し、公開され たい。</p>
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p>直営部分： 要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎府民に開かれた施設としての公共性、公益性について追求し、研 究成果の積極的な公表やニーズを的確に捉えたサービスの提供な ど、より可視化した形で府民還元に取り組むこと。</p> <p>◎利用可能なサービスの積極的な発信を行うとともに、利用者のニ ーズに応じた施設の効果的な利活用を図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○研究成果や所蔵品について、より積極的に公開し、明瞭な府民還 元に努める。各種サービスについても広報を強化し、より利用者 が来館しやすい環境を創出する。</p> <p>○利用率の低いエリア等の利活用を検討し、指定管理者とも連携し て施設全体の積極的な利活用を図る。</p> <p>指定管理部分： 継続</p> <p><改善方策></p> <p>◎設置目的に沿った取組を強化しながら、引き続き効果的な利活用 を更に図ること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○府民が京都の歴史や文化を学ぶとともに、その発展に寄与する事 業等を強化しながら、施設機能を最大限に活かし、幅広く効果的 な利活用を図る。</p>